

■もしもの時の停電操作ガイド(スマートスターL)

～ 運転モードの設定 ～

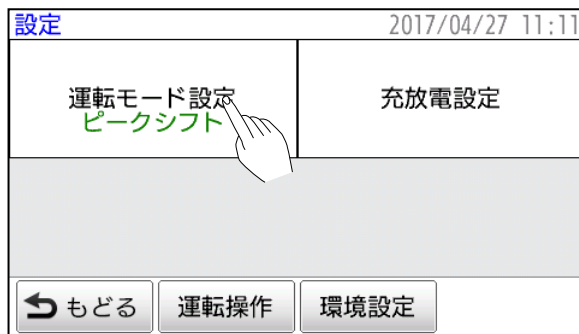
運転モードの設定を変更します。

以下の手順はピークシフトモードからバックアップモードへの変更手順です。

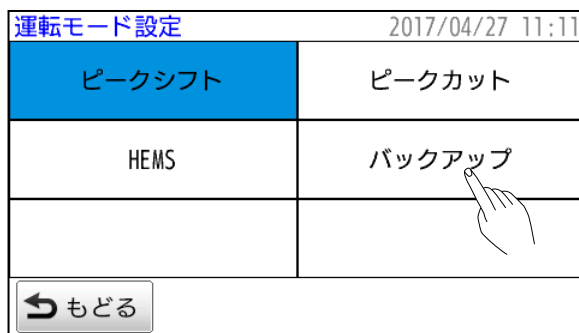
他のモードへの変更も同様の手順で行ってください。



①「メイン」画面で「設定」ボタンを押します。



②「設定」画面で「運転モード設定」領域を押します。

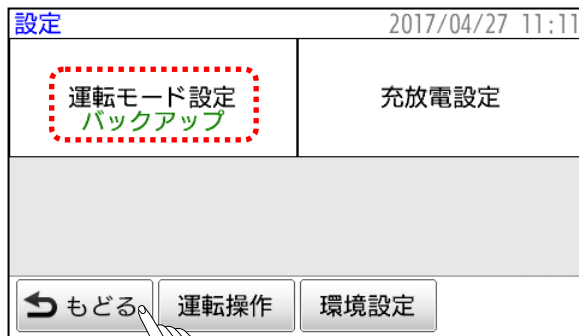


③設定されているモードの背景が青く表示されています。変更するモードの領域を押します。左図はピークシフトモードからバックアップモードに変更する例です。

※この時、停電の心配がなくなった際に元の設定に戻しますので、変更前の運転モードを把握しておいてください。



④「もどる」ボタンを押します。



⑤「運転モード設定」領域に「バックアップ」と表示されていることを確認後、「もどる」ボタンを押して「メイン」画面にもどってください。



⑥画面左上に「バックアップ」と表示されていることを確認してください。

「バックアップモード」

電力を蓄えた状態で待機するモードです。電池残量が少ない場合は充電時間に関係なくすぐに充電を始めます。蓄電システムを非常用電源として使用する場合に設定するモードです。

充電する時間帯によっては、単価の高い電力で充電することがあります。

充電には一定の時間がかかります。計画停電に備えて「バックアップモード」で使用する場合は、計画停電開始5時間前をめやすに時間的余裕をもって「バックアップモード」に変更してください。

太陽光発電システムを接続している場合、発電した電力を充電に使用することがあります。

「バックアップモード」は、停電発生もしくは「ピークシフトモード」、「ピークカットモード」、「HEMS」に変更するまで放電は行いません。

「停電モード」

蓄電池に蓄えた電力によって、停電中の家庭内に電力を供給するモードです。停電を検出すると、自動的にこのモードに切り替わります。

太陽光発電システムがある場合は、家庭内負荷に対して太陽光発電量を差し引いた分だけ放電を行います。太陽光発電量が家庭内負荷を上回った場合、その余剰電力を蓄電池の充電に使用します。

復電を検出すると、停電モードに切り替わる前の運転モードに戻ります。